

新城市民病院での研修を終えて
豊橋市民病院 研修医2年次

4週間という短い間でしたが大変お世話になりました。先生方には毎日最後に1日の振り返りの時間を作っていただき、患者さん1人1人の治療方針や病態の注意点などについて丁寧にご指導いただきました。また、コメディカルの方々には普段の研修以上にカンファレンスや院外実習などで密に接していただき、今まで気づけていなかった視点から見つめることができました。

毎日午前中は外来予診を担当しましたが、普段の救急外来では問診をないがしろにしてしまうような、患者ADLの詳細な聴取や、生活背景・家族背景をしっかりと問診することが重要であると実感しました。患者は高齢者が多く、帰宅可能な患者でも老夫婦で生活しており面倒を見るのが困難な場合は入院して経過観察するなど、柔軟な対応をしており、業務が忙しい中で満足度が高い医療を提供していることが印象的でした。

また、インフルエンザの流行時期で発熱患者が多く訪れました。普段救急外来での診療では特段意識することはありませんでしたが、新城では先生方に検査前確率や検査の意義について丁寧にご指導いただきました。大変勉強になると共に、普段の診療では検査の閾値が低く如何に検査に頼りきりであったかということを反省しました。

さらに、病院外での実習も数多く、介護施設の見学や訪問看護・リハビリの見学では、今までMSWの方をお願いして退院調整をして退院していた患者のその後の実際の現場を見ることができ現場の方の話を聞くことができ勉強になった。これまで疾患を治すことばかりに目がいって、あまり患者の退院後の生活に重きを置いていなかったと思います。もちろん疾患が治るもしくは軽快することも重要ではありますが、特に高齢者の場合は入院中にADLが落ちることも多く、介護の問題が発生するなど退院後の方が問題になることも多いように思います。その時にどのようなサービスが使えるのか、退院後施設に行くのであれば使えない薬を処方してないかなど配慮すべき点が数多くあることを知れました。

最後に、お世話になった先生方、コメディカルの方々、本当にありがとうございました。これからもより良い医療が提供できるような医師になれるように精進してきたいと思います。